

修士論文（要旨）

2010年1月

体位変換技術習得における動作法活用の有効性の検討

主査 山口 創 准教授
副査 鈴木 平 准教授
副査 阿久根 英昭 教授

国際学研究科 健康心理学専修

208 J 5013

齋藤 秀子

目次	ページ
I 序論	
1. 看護技術における体位変換の変遷	1
1) 体位変換とは	1
2) ボディメカニクスを応用した体位変換	1
3) 体位変換の革命	2
4) キネステティックを応用した体位変換	3
2. 体位変換技術教育の変遷	5
3. 体位変換に関する先行研究	5
II 問題提起	
1. How を支援する身体スキル支援	7
2. 動作法	8
3. 動作法を看護技術習得に取り入れることの意義	10
4. 研究の目的	10
III 予備実験	
1. 目的	11
2. 方法	
1) 対象	11
2) 手続き	11
3) 時期および場所	11
4) 方法	11
5) 結果	12
6) 考察	13
IV 本実験	
1. 目的	14
2. 方法	
1) 対象	14
2) 手続き	15
3) 研究時期および場所	15
4) 方法	15
3. 結果	
1) 分析方法	19
2) 動作分析	20
3) 心理指標	25
4. 考察	31
V 結論	33
おわりに	33
参考文献	

IV 本実験

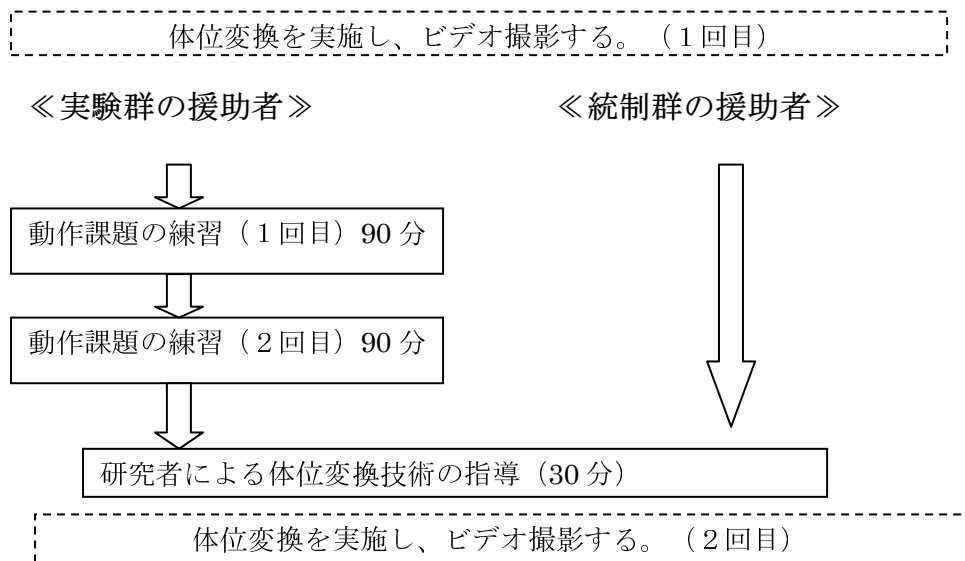
1. 目的

体位変換技術の学習方法に、持永（1986）が行ったような身体の使い方を指導するという方法は行われている。しかし、**Expert-novice difference** 研究から得られた身体の使い方を指導しても、動きの構造化ができない初学者にとっては、習熟が難しいと考える。一般に身体スキルの獲得は学習者が身体の動かし方に関する統合モデルを模索することにある。与えられた着眼点を自分の意識に取り込み、自分の身体に適した身体統合モデルを構築する行為と解釈してよい。それは、「単なる形の模倣を超えた型の習得」に相当する。（諏訪 2009）

そのためには、身体を考える必要がある。そこで、**Expert-novice difference** 研究から得られた身体の使い方指導するのではなく動作法が自体の感覚をたかめ、自体のコントロールを可能にすると考え、動作課題の練習をおこなうことで、体位変換の身体スキルが向上するのではないかと考え、それを検証する。体位変換は援助技術であるから、おのずと、援助者が安楽で安全であることは言うまでもないことである。そのために、動作の解析だけではなく、被援助者の主観的な安楽性の違いも明らかにすることで、体位変換技術習得における動作法の有効性を明らかにする。

2. 方法

実験の流れ



3. 結果および考察

1) 動作分析

仰臥位から長座位への体位変換で、援助者の上体の沈み込みを示す、Z変位が実験群において有意傾向があり、側臥位から端座位への体位変換では、実験群で援助者の自然な動きを作り出していた。

2) 援助者・被援助者の主観

実験群と統制群に差はみられなかった。今回は対象数が少なかった。身体の自己コントロール力の向上を期待できる動作法の活用をさらに検討してみることで、「単なる形の模倣を超えた型の習得」へ向かうことにつながるのではないかと考える。

参考文献

- 浅野順一他 看護動作に関する研究—側臥位から長座位への体位変換—
第22回バイオメカニズム学術講演会 2001.11.23・24
- 江本愛子他 基礎看護技術の授業展開(2)運動ニードへの援助技術—ボディメカニクスから看護過程までの関連づけ—看護展望 Vol.15 No.11 1990.10 1263-1267
- Frank Hatch、Lenny Maietta キネステティック 健康増進と人の動き 日総研 2004
- Frank Hatchら 看護・介護のためのキネステティック 上手な「接触と動き」による介助 2004 第2版
- 長谷川美津子他 キネステティック概念を取り入れた「体の動かし方」の授業の試み
ナースエデュケーション Vol.4 No.4 2003 10-16
- 菱沼典子他 体位変換技術—患者・看護者双方の安全・安楽②科学的分析— Nursing
Today Vol.11 No.6 1996.6 34-37
- 星野公夫他 運動技能の効果的な習得—運動技能の構成要素としての基礎的運動能力を
高める動作法— 日本体育学会大会号 (52) 272 2001.8.10
- 星野公夫 動作法から見たスポーツ選手の心身の自己コントロール 体育学研究 42
205-214 1997
- 星野公夫 砲丸投げ選手に対する動作法の適応—運動技能の構造化とそれに基づく選手へ
の対処— 沖縄国際大学人間福祉研究 Vol.1 No.1 2003.3 61-78
- 星野公夫 体操競技への動作法の効果(1) 日本体育学会大会号 (50) 493 1999.9.15
- 池永恵美 動作課題における援助者の援助のあり方と動作者の動作体験との関連 九州大学
人間共生システム専攻 2002
- 井上久美子 動作遂行プロセスにおける「自体感」・「対援助者体験感」の変容過程 九州大
学人間共生システム 2002
- ジェレミー・チャンス 片桐ユズル訳 ひとりでできるアレクサンダー・テクニーク—心身の
不要な緊張をゆるめるために— 誠信書房 2006.3
- 紙屋克子他 ボディメカニクスのココが変わった月刊ナーシング Vol.16 No.8 1996.7 50-57
- 春日美香子 体位変換の技術—患者・看護者双方の安全・安楽①経験的知識— Nursing
Today Vol.11 No.5 1996.5 34-37
- 小坪昭仁他 目標志向性に及ぼす動作法の効果 日本体育学大会号 (50) 322 1999.9.15
- 小坪昭仁他 動作法による姿勢の気づきの変化 日本体育学大会号 (51) 194 2000.8.25
- 今野義孝 身体緊張—弛緩の体験と対人知覚—質問紙法とパーソナル・スペースの測定を通
して— 行動療法研究 Vol.21 No.1 6-14 1995
- 持永静代 現代若者の特徴と基礎看護技術 看護教育 Vol.27 No.9 566-571 1986.8
- 水戸優子 看護学生・看護婦による患者の車椅子からベッドへの移乗介助の分析(1)—画像
分析を中心に— 東京都立医療技術短期大学紀要 第11号 1998.3 199-204
- 三富道子他 介護職員のスキルアップのための介護技術教育プログラムの検討 静岡県立大
学短期大学部研究紀要 第22号 2008 85-89
- モーシェ・フェルデンクライス 心をひらく体のレッスン フェルデンクライスの自己開発法
—光社 2001
- 村本淳子 ボディメカニクスの視点からみた体位変換技術 月刊ナーシング Vol.16 No.8
1996.7 66-70

- 成瀬悟策 動作訓練の理論 第2版 誠信書房 2000
- 成瀬悟策 動作のこころ 誠信書房 2007
- 大河原千鶴子 ヘルスワークを支える 看護の人間工学 医歯薬出版 2006.1
- 小川鑛一 看護動作のエビデンス 東京電気大学出版局 2003
- 征矢英明 運動後の回復を表す新しいストレス指標開発：唾液中コルチゾール濃度からみた二次元気分尺度の有用性 筑波大学体育科学紀要28 2005 181-186
- 佐藤みつ子 看護技術の人間工学的研究意義 Yamanashi Nursing Journal Vol.2 No.2 1-8 2004
- 佐藤早苗、星野公夫 動作法が認知するタイルに及ぼす影響 日本体育学会大会号 (50) 323 1999.9
- 須藤系子 動作課題と自体感との関連 リハビリテーション心理学研究 Vol28 2000 21-34
- 諏訪正樹 スポーツの技の習得のためのメタ認知的言語化：学習方法 (how) を探求する実践 FLT イベント企画「近未来技術と情報科学—スポーツと情報技術—2007
- 諏訪正樹、西山武繁 アスリートが「身体を考える」ことの意味
<http://www.jast.ac.jp/ksl/papers/sig-skl-2009.0109-4.pdf#search=アスリートが「身体を考える」ことの意味> 2009.1
- 武未希子他 看護におけるボディメカニクスに関する文献検討 東京都立医療技術短期大学 紀要 第11号 1998.3 175-181
- 只浦寛子、徳永恵子 人間の自然な動き“上方移動”日本看護技術学会第8回学術集会講演抄録集 2009.9 p 107
- 只浦寛子 新しい動きの看護支援評価ツール SOPMAS とは何か 日本看護技術学会第8回学術集会講演抄録集 2009.9 p 116
- 鶴光代 動作療法における「自体感」と体験様式 心理臨床学研究 Vol.9No.1 1991 5-17
- 鶴光代 臨床動作法への招待 1. 臨床動作法における動作の視点 臨床心理学 Vol.2No.2 2002.3 249-255
- 芳野香 アレクサンダー・テクニックの使い方「リアリティ」を読み解く 誠信書房 2003.3
- Virginia Henderson 看護の基本となるもの 改訂版 日本看護協会出版会 1983.3